勉

三年　画数 10　筆順 ク 免 免 免 免 勉　オン ベン　クン

成り立ち

卵がわれて中みが出る形の〝兎〟と人の形をあらわした〝勹〟とを組み合わせて作った〝免〟という字は、人がしごとをしおえてせきにんを〝免れる〟といういみの字です。

勉は、その〝免〟と〝努力する〟といういみをあらわした〝力〟とを組み合わせて作った字で、「せきにんを免れるために努力する」といういみの字です。「しなければならないことを、早くしおえようと〝つとめる〟」ことをあらわした字です。例勉強、勉学。

〔免は、娩の本字で、人が生まれ出る意味を表した字である。人の、女としての責任であり、生めば責任を免れることになる。漢音はベンだが、呉音はメン〕

使い方

▽わたしは、毎日、学校で勉強しています。国語は好きですが、算数はあまり好きではありません。

▽おとうさんが、会社で表彰されました。「なぜ、表彰されたの？」と聞いたら、おかあさんが、「おとうさんは勤勉に働いたからよ」といいました。

熟語例

▽勉強（学校で習うことや、しごとなどに努力すること。「あの人は、勉強家だ」などといえば、学習やしごとなどを努力してやる人といういみになります。）

▽勉学（学問にはげむこと。「むかしの人は、ほたるの光や、窓の雪のあかりで、勉学に努めたものでした」などというふうに、つかいます。）

▽勤勉（しごとや学問に、いっしょうけんめい、はげむこと。「勤勉に働く人は、けっして貧乏することはありません」などというふうに、つかいます。）

▽勉励（しごとなどに励むこと。「刻苦勉励して、今日の地位をきずきあげた」などというふうに、つかいます。）

放

三年　画数 8　筆順 丶 亠 方 方 放　オン ホウ　クン はな＝つ＝す＝れる

成り立ち

手にぼうをもった形をあらわした〝攵〟と、〝方がく〟といういみの〝方〟（方（2年226））〝とを組み合わせて作った字。「手にぼうをもって『あっちの方へ行け』と〝おいはらう〟」ことをあらわした字です。

〝おいやる〟こと。〝はなつ〟こと。

「とらえたものを〝はなつ〟」ことから、〝ときはなす〟〝自由にする〟といういみにもつかわれるようになりました。

また、「自由にさせる」といういみから、〝かまわないでおく〟〝すててお く〟〝気ままにする〟などのいみにもつかわれます。

使い方

▽犬をさんぽにつれていきました。本当は、くさりから放してやれると、いいのですが、人のめいわくになるので、放してやれません。人のいない草原などで放してやって、自由に走りまわらせてやりたいと思います。

▽けがをした小鳥をかいほうしてやったことがあります。なおってから、放してやったら、よろこんでとんで行きました。また、帰ってこないかな、ときたいしています。

熟語例

▽追放（追い放つこと。追いはらうこと。）

▽釈放（とらえておいた人をゆるして、自由にすること。）

▽放任（かまわないで、自由にさせておくこと。「自由放任は、子どものためにならない。しつけるべきことは、しつける方が、けっきょく子どものためだ」などというふうに、つかいます。）

▽放棄（なげすてること。「まけた兵士たちは、ぶきを放棄して、こうさんした」などというふうに、つかいます。）